

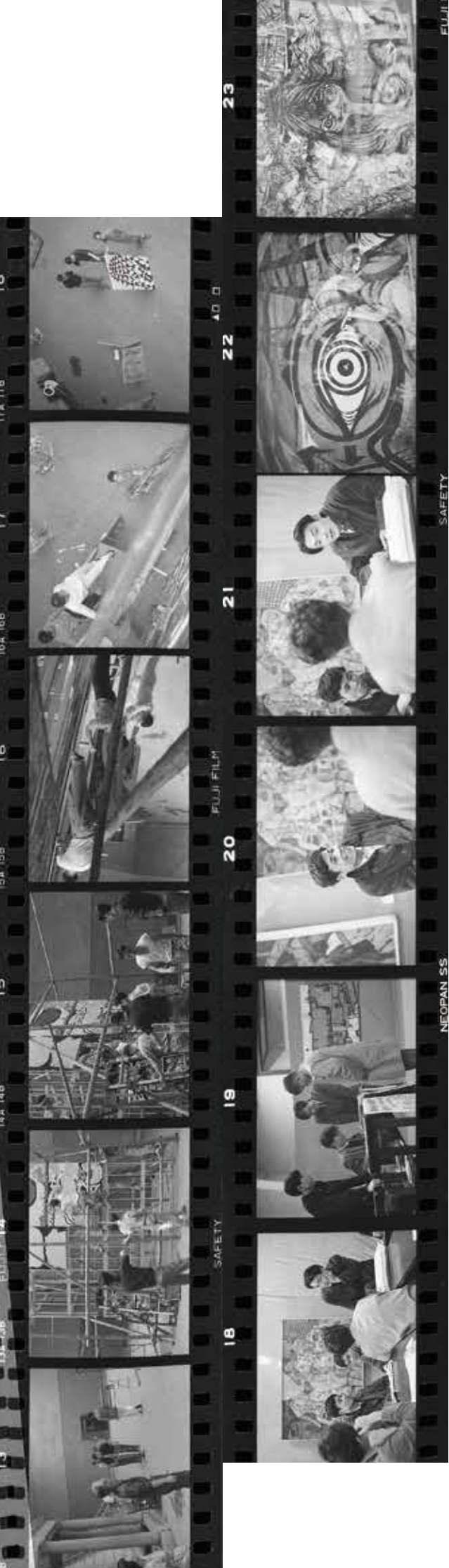
シンポジウム 日本戦後芸術の アーカイブ構築と 学術的方法論の研究

三つのケーススタディをもとに



2026年11月15日〈日〉
13時開会 17時30分閉会予定
東京文化財研究所 セミナー室
事前申込制●参加無料

主催 一科研費「日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究
三つのケーススタディをもとに」(JP24K00037)
共催 一般社団法人 戦後芸術資料保存



左 東京芸術往展 (1965年、東京都美術館1階彫刻室) 中 抵抗と挫折の絵画展 (1960年、早稲田大学3号館404教室「政経学部」) 東京文化財研究所蔵山下菊二関連資料
右 東京画廊前で手を腰にする久野真。1961年9月個展より (提供:東京画廊+BTAP)

シンポジウム 日本戦後芸術の アーカイブ構築と 学術的方法論の研究 三つのケーススタディをもとに

2024年度より進行してまいりました科研費研究「日本戦後芸術のアーカイブ構築と学術的方法論の研究：三つのケーススタディをもとに」(JP24K00037、代表：橘川英規)が本年度で最終年度を迎えます。本研究では、公的機関(東京文化財研究所)所蔵のアーカイブ、民間団体所蔵のアーカイブ、作家やご遺族の個人アーカイブという三つの異なる性質を持つ戦後芸術アーカイブの調査・分析、資料のデジタル化に取り組み、そのなかでアーカイブの学術的方法論を研究してまいりました。

この度、最終年度にあたり、本研究の成果を発表するとともに、外部でアーカイブに関わる保存・整理・活用に取り組まれている研究者の方をお招きするシンポジウムを開催いたします。公開のかたちで行う本シンポジウムを契機として、戦後芸術アーカイブをめぐる多様な議論が交わされることを願っております。

● 事前申込制 | 定員120名・参加無料・11月8日締切

参加ご希望の方は、件名を「11/15シンポジウム参加申込」とし、お名前・ご所属を明記のうえ、右記アドレスまでご連絡ください。【申込先】東京文化財研究所 橘川英規 kikkawa-h7i@nich.go.jp



セッション1

東京画廊資料のデジタル化について	三上 豊 (東京文化財研究所)
中村宏関連資料をめぐって	橘川英規 (東京文化財研究所)
戦後前衛芸術の再検証：国際的な展示実践と資料活用	平澤 剛 (京都産業大学)
「かみ派の美術」におけるアーカイブの活用	細谷修平 (和光大学)

セッション2

吉村益信アーカイブについて	進行 半田滋男 (和光大学)
「高知の前衛」をめぐるアーカイブの現在	木藤野絵 (大分県立美術館)
	塚本麻莉 (高知県立美術館)

共同討議「戦後芸術資料の整理・連携がもたらす歴史再記述の可能性」



左「かみ派の美術—諏訪につどった前衛たち 1969-1974」展 (2026年、長野県伊那文化会館)

中 Community of Images: Japanese Moving Image Artists in the US, 1960s-1970s, Art Alliance, University of Arts, Philadelphia, 2024

右 Asia, The Apparatus, Asian Culture Center, 2026